市議会報告

葛城市はじめるネット

2025年5月

通算第28号

1968年1月1日 葛城市 (旧・新庄町) 生まれ 新庄北小、新庄中、畝傍高、立命館大卒 図書館開設事業に司書として従事し、 出版社で編集・営業を経験 のちに出版社を創業

2004年 葛城市誕生とともにUターン 市政モニターやまちづくりNPOに参加

葛城市議会議員として

2017年 初当選(1期目)

議会だより編集委員会 委員長 厚生文教常任委員会 副委員長 2021年 再選 (2期目)

副議長

総務建設常任委員会 委員長 議会運営員会 副委員長 私が副委員長を務める議会運営委員会で 2月に視察研修を行い、京都府京丹後市で 市民懇談会について学びました。



今年度も私の要望が実現

3月議会で2025 (令和7) 年度の葛城市一般会計予算(194億5,600万円)が可決されました。 私が議会で提言、要望してきた「アピアランスケア支援」などの事業が実現しました!

アピアランスケア支援事業

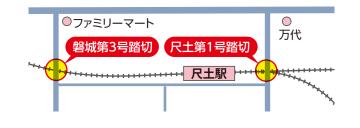
がん治療に伴う外見の変化に対応するため、医療用ウィッグなどの購入費用を助成する制度が、 4月から葛城市で始まりました。私はこれまで一般質問などで、治療後も自分らしく生活できる本制度導入の必要性を繰り返し訴えてきました。

対象となるのは、がん患者の方が使用するウィッグや補正具(補正パッド・人工乳房・補整下着)で、購入費の2分の1(上限2万円)を助成。購入から1年以内の申請が必要です。

■ 踏切道内に点字ブロック

踏切道内に点字ブロック(エスコートゾーン)が整備されます。場所は、磐城第3号踏切と尺土第1号踏切(尺土駅すぐの東西の2か所)です。

私は昨年、県内で起きた視覚障がい者の踏切事故を受け、6月議会でエスコートゾーンの設置を強く要望しました。公共空間のバリアフリー化は命を守る施策です。今後も、誰もが安心して移動できるまちづくりに取り組んでまいります。



2024(令和6)年 (12月9日) 5

|不満の声から学ぶ行政へ

市役所の対応に不満を感じたと、市民の方から ご意見をいただきました。書類の誤送付や窓口で の間違った案内は、たとえ小さなことでも市民の 信頼を損ないかねません。

私は、個人の責任を問うのではなく、組織とし てどのように改善に取り組んでいるのかを市に問 いました。また、チェック体制の強化や、公表の あり方も課題として提起しました。

市民の声を受け止め、改善を重ねていく姿勢こ そが、市政への信頼を築く基盤になると考えます。

|差別を許さないまちに

昨年10月、市内でヘイトスピーチを耳にしたと の声が多くの市民から寄せられました。私は「人 権政策」について一般質問を行い、差別のない 地域社会の実現に向けて市の姿勢を質しました。

市は「国籍や民族を理由とした排他的な言動は、 決してあってはならない」と明言。これまでにも、 在日コリアン3世を講師に招いた市民集会の開催 や、相談窓口の整備、人権問題推進本部による 対応体制の構築など、啓発と対応の両面で取り組 んできたとのことでした。

今後さらに社会の多様化が進むなか、無意識 の偏見に気づく力を養う啓発や、市職員の継続的 な研修の充実も重要です。人権が尊重され、誰 もが「住んでよかった」と感じられる葛城市を目 指して、これからも取り組んでまいります。



災害時に命を守る計画を

近年、大規模災害が頻発するなか、自治体が 策定する「事業継続計画 (BCP)」の重要性が高まっ ています。災害時にも行政の重要業務を継続し、 市民の命と暮らしを守るための計画です。

市では現在、BCPの改訂を進めており、非常時 に優先すべき業務の整理や職員の役割、避難所 の運営や他自治体との連携など、現実に即した備 えの強化を図っているとのことでした。

大災害時には「想定外」の事態が起こり得ます。 だからこそ訓練と見直しを重ね、職員一人ひとり が「今、自分は何をすべきか」を考え行動できる 体制づくりが、BCPの本質だと私は考えます。

★本紙は、家族とともに手配りでお届けしています。ご希望の方には、郵送も行っています。 街頭(尺土駅南側、近鉄新庄駅、磐城駅、忍海駅)でも朝(6:30~7:45)の配布を行っています。





〒639-2101 奈良県葛城市疋田379 電話&FAX 0745-69-7590

